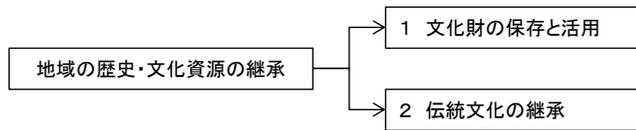


施策5 地域の歴史・文化資源の継承



基本事業1 文化財の保存と活用

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R1実績	R2実績	R2目標	
5-1 文化財の保存と活用	①文化財 ②市民	①適切に保存・継承される。 ②地域の歴史を知り、郷土への愛着を育む。	①国、県、市の指定文化財の件数 ②博物館登録資料件数 ③博物館受入資料件数(累計) ④博物館入館者数	①件 ②件 ③件 ④人	①87 ②6,363 ③3,357 ④7,378	①87 ②6,373 ③3,365 ④2,483	①88 ②6,290 ③3,388 ④9,500	A 指定文化財については、それぞれの管理者において、適切に保存、管理が行われている。 また、博物館においては、コロナ禍により入館者数が減少したものの、文化財に対する市民の理解を深めるため、継続的に企画展示や特別展示、体験学習を実施している。さらに、ジオパークコーナーの拡充のほか、ホームページでの収蔵資料の公開を開始し、積極的な情報発信に努めている。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R1実績	R2実績	R2目標		
5-1-1 文化財調査研究事業	埋蔵文化財	・埋蔵文化財を記録保存する。 ・調査報告書を作成し、調査結果を公開する。	開発行為に伴う長谷堂貝塚群発掘調査、発掘調査資料の整理、 開発行為に伴う事前調査	①発掘調査による出土遺物量 ②発掘調査報告書を刊行した遺跡数	①箱 ②遺跡	①1 ②0	①10 ②1	①100 ②1	A 開発行為に伴い、発掘調査の可能性の有無など、事前情報の把握に努めながら、適切に事業を実施し、埋蔵文化財の保存が図られている。	○ 復興事業関連の埋蔵文化財調査を優先してきたため、未整理となっている出土品を整理し、調査報告書の作成に向けて、計画的に事務を進める必要がある。
5-1-2 博物館調査研究事業	市立博物館	気仙地域の自然と文化の理解に資する資料に 学術情報を付加する。	博物館専門研究員の委嘱、気仙地域出土資料調査(考古)、三陸ジオパークジオサイト調査(地質)、研究文献・専門図面の購入、文化財調査研究事業への協力等	登録資料数	件	6,363	6,373	①6,290	A 地域の自然と文化を理解するうえで必要となる資料を収集し、受入資料等に対し、適切な調査・研究を行い、正確な学術情報を付加している。	○ 総合博物館として必要な事業が行われているが、ジオサイト関係など新たな分野の調査研究が求められている。 資料の登録を含み、効率的に調査研究を推進し、文化財の保存・活用、次世代への継承に結びつけていく必要がある。

基本事業 2 伝統文化の継承

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R1実績	R2実績	R2目標	
5-2 伝統文化の継承	伝統芸能継承団体	後継者を育成し、伝統文化を継承する。	①大船渡市郷土芸能協会加盟団体数 ②「郷土芸能や地域の祭などが盛んである」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①団体 ②%	①30 ②47.9	①28 ②38.5	①32 ②60.0	B 関係者の熱意と努力により、郷土芸能をはじめとする伝統文化は、地域や次世代に継承されている。しかし、市郷土芸能協会加盟団体が2団体減少するなど、少子高齢化や人口減少による後継者不足の影響が顕在化している。 また、「郷土芸能や地域の祭などが盛んである」と答えた市民の割合が減少していることから、コロナ禍における活動や後継者育成のあり方を検討するとともに、郷土芸能の魅力を積極的に発信する必要がある。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R1実績	R2実績	R2目標		
5-2-1 文化財保護管理事業	指定文化財、埋蔵文化財	文化財が現状維持される。	文化財公有地等の刈払い、国特別天然記念物ニホンカモシカの保護及び滅失処理、天然記念物銘木樹勢回復、民俗芸能の育成支援、開発行為に係る埋蔵文化財の保護指導など ※大船渡の三面椿周辺環境整備	①滅失せず現状が維持された指定文化財数 ②郷土芸能協会加盟団体出演回数	①件 ②回	①87 ②36	①87 ②16	①88 ②50	B 文化財の保護・管理は概ね適切に行われているが、コロナ禍により民俗芸能団体の活動が減少している。	●文化財の保護と活用を安定的に行うため、長期的視野に立った文化財保存活用地域計画を策定し、執行体制や保護の方針を定める必要がある。
5-2-2 子ども郷土芸能まつり開催支援事業	子ども郷土芸能まつり実行委員会	円滑に事業を運営してもらう。	子ども郷土芸能まつりの開催(隔年開催) ※令和2年度は中止	市補助金額	円	—	—	500	C 平成30年度に実施して以降2年続けて開催しておらず、民俗芸能の後継者育成に資する活動の場が確保しにくくなっている。	●参加団体が減少していることから、郷土芸能の披露の場の確保と後継者育成という双方の目的が達せられるよう、関係団体と協議を行い、より効果的な事業運営について検討を進める必要がある。

□総括

施策名	対象	意図	成果指標				進捗度とその理由等	
			項目	単位	R1実績	R2実績		R2目標
5 地域の歴史・文化資源の継承	市民	郷土の伝統や文化を知り、郷土に誇りと愛着を持つ。	「郷土の伝統文化や文化財を大切にしたい」と答えた市民の割合(市民意識調査)	%	73.2	73.1	80.0	B 文化財については、その魅力を発信し、市民への愛護思想の啓発を図りながら、市の実情に応じた保存活用計画を定め、地域総がかりで保存、活用に取り組むことが求められている。 また、コロナ禍により民俗芸能活動が困難になっていることから、関係団体との情報共有に努め、活動の継承と担い手育成を図る必要がある。 埋蔵文化財については、震災復興に関連する調査が令和2年度をもって完了したが、そのほかの未整理となっている出土品について、計画的に整理作業を進める必要がある。
			課題				<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢を踏まえた伝統芸能の後継者確保対策の充実 ・文化財を活用した市の魅力発信や交流人口拡大のための取組の拡充 ・文化財保存活用地域計画の策定 ・博物館資料及び埋蔵文化財資料のデータベース化の推進 	